

令和5年度学校評価中間報告

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価
学校行事(総務部)	・意義を明確に認識させることにより、それに伴った所作、行動をとれるようにする。	・行事の目的、意義を告げ認識させる。身だしなみ指導と所作指導を細やかにを行う。	・関係分掌と学年と連携をした身だしなみ指導、所作指導をすすめる。個々に場に応じた姿勢・行動が自らとれるようにする。	・新型コロナウイルス感染症が第5類になったこともあり、6月の全校集会から体育館で実施をしている。1学期の終業式は熱中症のリスクと感染状況も踏まえ、放送で実施した。担任の先生方の協力もあり、目的意義を周知させ、所作も含めて滞りなく進行することができている。
学習指導(教務部)	・授業の充実 ・新学習指導要領への対応(観点別学習評価の適用) ・校務支援システム(スクールエンジン)の円滑な運用	・授業状況の把握、情報交換の活性化を図る。 ・新学習指導要領について理解を深め、観点別学習評価について検討する。 ・校務支援システムをできるだけ活用する。	・各教科、学年との連携を図る。 ・生徒の実態を正確に把握する。 ・情報を積極的に集め、検討する。	・授業研究週間には多くの先生方が授業参観され、新しい気付きを得る機会とすることができていた。後期もより多くの先生方の参加によって、より良い授業づくりにつなげていきたい。 ・本校生徒にあった観点別の学習評価を各教科で工夫して行っている。来年度に向け改善点を洗い出し、生徒の主体性などを適切に評価できるようにしていきたい。 ・校務支援システムについては、学期末処理の効率化に役立っている。さらに円滑に進むよう先生方に役立つ機能などを教務から発信していくように努めたい。
進路指導(進路指導部)	・生徒の自己理解の深化、視野の広い職業観の形成の支援 ・進路行事の企画・運営、学年・教科との連携 ・適切な進路情報の提供 ・書類の適切な発行及び管理	・教科主任会や学力向上委員会の有効活用をする。 ・進路資料室の生徒の利用を増加することで、生徒の進路に対する意識を向上する。 ・校務支援システム(スクールエンジン)を利用した調査書発行については、昨年度のマニュアルをさらに詳細なものに仕上げる。	・進路資料室を使用できるようにするために、進路委員を活用する。また必要に応じて進路委員会を実施する。 ・進路面に関して、校務支援システム(スクールエンジン)でできる内容を確認したうえで、有効活用できるようにする。	・オープンキャンパスの案内をまとめて生徒に周知するなどの形を取りながら、生徒の進路意識の向上に努めている。進路資料室の利用についても、整備を進めつつ、利用可能な状態にしていきたい。 ・調査書発行において、校務支援システム(スクールエンジン)を効果的に利用することができている。マニュアルについても詳細なものが出来上がり、来年度にも生かしていきたい。
生活指導(生徒指導部)	・学校が、安心、安全な場所であるためにも学年、分掌間で積極的な情報交換、情報共有を行い、学校全体で指導を行うよう努める。 ・遅刻、欠席、早退を減らし、基本的な生活習慣の確立に努める。 ・身だしなみ指導については、学校全体で取り組む。	・日頃から生徒の様子をしっかり観察し、声かけや保護者との連絡を密にして信頼関係の構築に努める。 ・安易な遅刻や欠席をさせないよう指導を徹底する。 ・身だしなみ指導については再指導を含めしっかりとやり切る。	・生徒や保護者との信頼関係を構築する。 ・生徒達が、学校を安心・安全な場所とし、学習や部活動に専念できるようにする。 ・分掌、学年と連携し、生徒指導にあたる。 ・地域に支えられて教育活動をおこなっており、地域から信用・信頼される行動をとれるようにする。	・身だしなみについては先生方の協力のおかげで、校則の見直し後もある程度落ち着いている。 ・欠席、遅刻、早退については、引き続き学年と情報を共有して減少に向けて学校全体で取り組んでいく。 ・第1回の生徒アンケートによると、担任の先生が保護者との連絡を密にして生徒をよく見ていただいているため、安心して学校生活を送ることができているようである。引き続き、学年との連携を円滑にして生徒を見守っていく。
いじめ防止対策の推進(生徒指導部)(教育相談)	・いじめの未然防止に関わる取組を充実させる。 ・いじめの早期発見し、適切に対応する。	・全校生徒を対象にした人権講話を始め機会ある毎に、相手を尊重し、円滑な関係を築き上げることの大切さを伝えていくことでいじめを自発的に防止する態度を育てる。 ・「生活状況調査」を実施し、生徒の情報を共有し早期発見と適切な対応を、学校全体で実践していく。	・「生活状況調査」を実施し、生徒の情報を共有し早期発見と適切な対応を、学校全体で実践できるようにする。 ・生徒は、命の大切さ、他人を思いやる気持ちを持つてるようにする。	今年度より、早期発見、未然防止のために学期に1回生活状況調査(生徒アンケート)を実施している。調査結果に基づいていじめ対策委員会で情報共有といじめ解消に向けた組織的な対応をしている。
生徒会活動(生徒会担当)	・帰属意識を高め、自律した生徒会活動と部活動を確立する。	・生徒会規則はじめとする諸規定を実態にあうよう見直しをする。 ・各種委員会・関連実行委員会の積極的な活動をすすめる。 ・生徒会室、生徒会倉庫などの整理整頓と物品の管理をする。	・北高生の将来のあるべき姿を思い、生徒自らがすすんで行動し、社会に求められる人材になるよう配慮する。 ・生徒会予算の計画時に重点項目に留意して配分し、積極的な再配分も行う。 ・わずかな実績づくりから各委員会活動をすすめる。実績ある委員会に導く。 ・活動は、できる限り生徒自ら運営していくようにする。	ここ数年、生徒会執行部の生徒たちに対して「生徒自治」を念頭において接してきた。その甲斐もあり、様々な行事に対して生徒たちが主体的に活動する姿が増えてきた。今年度は生徒会を担当する教員の顔ぶれががらりと変わり、何をするにしても非常に困難な状況であるが、生徒たちの主体的な行動に助けられている。
P T A 活動(総務部)	・授業公開をはじめとする学校行事、総会をはじめとするP T A 行事への参加者を増やす。	・活動や行事の案内をはじめとする広報活動を積極的に進め、また、P T A 新聞を発行することで、取組への理解と協力を得る。	・一宮北高安心メールとホームページの連携を深め、活動や行事の案内を適宜掲載することでできる限りの周知を行う。	学校行事・P T A 行事の案内を、年間行事予定表に記載された一ヶ月前には文書で、数日前には一宮北高安心メールで発信し、伝達の徹底を進めている。その結果、P T A 総会や授業公開、学年保護者会に多くの保護者に参加していただいた。
防災(総務部)	・災害時に安全を確保し、円滑に応急対策をできるよう防災体制を見直す。	・防災避難訓練と防災学習(シェイクアウト訓練)を実施し、生徒に防災に対する意識を高めさせる。 ・より具体的な対応を記載した防災体制を作成し、教職員それぞれが周知できるようにする。	・災害発生時間帯、気象条件等できるかぎりの諸条件を考慮し作成する。特に、安否確認と保護者への引率手段、生徒の安全確保対策を確立し周知する。	5/1(月)に防災避難訓練を実施し、その際に防災講話を行ったことにより、生徒の防災に対する意識を高めることができたと感じている。
学校保健(保健部)	・生徒及び職員の健康保持増進を図る。 ・学校生活への適応が難しい生徒について関係諸機関と連携する。 ・ごみの持ち帰りを推進する。	・健康診断により病気の早期発見や早期治療を促し、健康の保持増進を図る。 ・毎朝担任による健康観察を実施する。 ・不適応が見られる生徒について、職員間の情報共有を密にするともに、SCやSSWと連携をして適切な支援の方策を探る。 ・持ち込んだごみの持ち帰りを呼び掛け、ゴミの削減を目指す。	・学校評価アンケート等で、良好な数値または取組の評価を得る。 ・受診が必要な生徒には、保護者会等も利用して受診の必要性を訴える。 ・生徒の心身の状態を観察することを怠らず、個々の状況に応じた援助ができるようにする。 ・高い環境意識をもった行動ができるようにする。	・先生方の協力で、健康診断については概ねスムーズに実施することができ、受診が必要な生徒については、保護者会等の機会も含めて受診勧告をすることができた。 ・不適応が見られる生徒について、職員間の情報共有に加え、SCとの連携も行っているところであるが、引き続き、適切な支援の方策を探っていく。 ・ゴミの削減についても、折にふれて呼びかけるなど、引き続き削減に努めていく。
図書(図書研修担当)	・図書館を活用した学習意欲の向上 ・文化的活動拠点の活性化及び図書に親しむ機会の活性化。	・教務部及び教科担当者と連携し、図書館オリエンテーション、図書館活用授業、図書委員会活動を活発にし、学習意欲の活性化を図る。 ・アサドクフェスタ等のイベントも充実させ、図書に親しむ機会を充実させる。	・各教科、学年、教務部との連携を図る。 ・生徒の活動・活用状況等を把握し活性化に繋げる。 ・学校評価アンケート等で、良好な数値または取組の評価を得る。 ・図書委員会を通して、イベント等の周知を工夫する。	図書委員会及び教科との連携を図り、オリエンテーションによる図書館利用の周知や図書館ライブラリー発行での新書の案内等、図書の貸し出しの向上に努めることができた。特に前期は、新1年生のオリエンテーションの工夫や授業、夏季学習会等での図書館利用、七夕短冊祭りの実施による図書館利用の活性化や保護書に向けての図書の貸し出し等にも取り組むことができ、学習意欲の向上にも繋げることができた。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止(安全衛生)(保健部)	・在校時間の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに、教職員のメンタルヘルスの保持に努める。	・部活動の活動日並びに活動時間の適正な設定と確実な運用を図る。 ・退校時間の設定、会議の精選、グループウェア導入による業務の適正化、効率化を図る。	・在校時間の状況記録の結果から前年同月比で時間減少させる。 ・安全衛生委員会のアンケート調査等で、良好な数値または取組の評価を得る。	・仕事の効率化に努めている部分もあり、在校時間の状況記録の結果、前年同月比で時間減少させることができていた。 ・安全衛生委員会のアンケート調査はまだ実施していないため、今後検討していく。
ICT活用(デジタル指導部)	・対話的で深い学びを実践できる授業が行えるように、ICT機器の利活用を促進し、物品管理を適切に行う。 ・生徒用タブレットの管理及び貸与業務を確実にを行い、利活用を促進する。	・ICT機器の整備を進め、教員が気軽にICT機器を使える環境を整えるとともに、物品の管理を適切に行う。 ・生徒用タブレットの利用規程等を適宜改め、生徒用タブレットの利活用を促進する。	・事務部と連携を図り、ICT機器や生徒用タブレットの適切な管理を行う。 ・生徒用タブレットの利活用に関して、他分掌と連携しながら、規程等を適宜改定する。	・現職研修を行い、Microsoft Formsの利活用方法などを共有できた。 ・事務部や学年の教員の協力があり、生徒用タブレット端末の配付を完了した。今後、利活用の様子をまとめ、適切に対応する。
広報(デジタル指導部)	・保護者へ学校行事等の情報を発信する。 ・中学生やその保護者に対し情報を発信する。	・ホームページの更新を積極的に行い、できるだけ早く保護者や中学生に学校の様子を伝える。 ・ニュースレターや学校紹介ビデオ等を通した広報活動を行い、中学生に本校の情報を伝える。また、魅力発信フェスタ等、直接中学生と接する機会を有効的に活用する。	・ホームページによる情報発信に力を入れ、迅速な更新に努める。 ・見やすさや分かりやすさに焦点を置くことを忘れないようにする。	・ホームページやニュースレターによる情報発信を迅速に行うことができた。 ・例年よりも早く学校案内(パンフレット)を完成させ、配布することができた。また、魅力発信フェスタでは、生徒が本校の魅力を中学生やその保護者に直接伝えることができた。
1 学年	・「規律」をテーマとし、生徒にルールを順守させる。 ・「思いやり」をテーマとし、生徒が相手目線で考えられるようアプローチする。 ・「主体性」をテーマとし、生徒自身が、積極的に様々なことに挑戦できるようにする。	・校則の周知徹底をする。 ・日頃から生徒の様子を観察し、細かなルール違反も見逃さず指導する。 ・トラブルへの対応や日頃の指導でも、「相手目線」を考えられるよう粘り強く声掛けをする。 ・生徒が主体的に挑戦する機会を多く作り、挑戦を応援、サポートする。	・学年団でも校則の共通理解を持つ。トラブルなどの対応方法についてルールを整備し、一貫性を持つ。 ・教員自身も、「生徒目線」を大切に、指導の効果が表れるように工夫する。 ・部活動への積極的な参加を支援する。 ・生徒会執行部や、行事の実行委員への参加を推奨する。	・「規律」については、大きなルール違反はなかった。生徒間のトラブルが起きた時には、教員間で連携を取りながら、丁寧に納得できるように指導をした。 ・トラブルが起きた時や集団で何かに取り組む時、担任を中心に、「思いやり」の大切さを実感させるような指導をした。 ・「主体性」をテーマに、様々なチャレンジを促進するアプローチができた。生徒会活動の実行委員や、土曜学習会への参加人数が多く、学校祭にも積極的に関わる生徒が多い。
2 学年	・「人間力の向上～自他を認め、互いに支え合う心を育む～」を第1目標とし、豊かな人権感覚を育む。 ・中心学年としての自覚を持ち、学校組織の一員として、目標を共有し、より良い学校生活を送るよう努める。 ・将来を見据え、計画性を持ち、自分の進路について真摯に向き合う。また、自分の行動に責任を持つ。	・学年団を中心とした講話によって、お互いを認め合い行動するように促す。また、挨拶や身だしなみなどの基本的な規律を守るように声掛けを絶えず行う。 ・学校行事に対して積極的に参加するように促す。また、中心学年としての責任を持たせて、自分の行動に対して責任を持つよう意識させる。 ・進路行事等の活動に積極的に取り組ませ、自分の将来について考える時間を確保する。	・学年団で共通の理解をもち、連携を取りながら、円滑な生徒指導を行う。 ・他学年や分掌と連携を取り、生徒に伝える情報を精選し、生徒が自発的に行動できるように心掛ける。 ・部活動や学校行事への積極的な参加を支援する。 ・中心学年として学校を支えていく立場であることを理解させ、適切な行動が取れるか注視していく。	・「自他を認め、互いに支え合う心を育む」について、まだ自律できていない生徒がいて、他者に対する配慮ができていない。引続き指導を継続していく。 ・学校祭の準備など行事を通して、中心学年としての力を発揮している。また、生徒会等にも率先して行動する生徒も多く、より良い学校生活を送れるよう努めている。 ・総合的な探究の時間を用いて、自分の進路について真摯に向き合っている。
3 学年	・『優しく、深く、健康第一人間力の育成』を第1目標とし、生徒の自己肯定感の醸成を図る。 ・学校生活における規律を遵守する精神と自立心を育み、社会性のある成人像を構築させる。 ・様々な事象から問題解決能力を育成し、生徒の進路実現を果たす。	・始業前の教室に入る生徒の様子を観察し、M S T や A S T での諸連絡の徹底と共に正副担任の講話等によって円滑で発展的な学級経営につなげる。 ・授業規律の遵守と進路実現への支援を図る。その過程で、豊かな社会性と成人としての在り方について考えさせる。 ・家庭学習を習慣化によって学力の向上を図り、オープンキャンパスや進路研究から自己の進路実現について熟慮させる。そして、常に家庭との連携を図り、進路実現を果たす。	・学年団の連携を密にして情報の共有を図り、生徒指導の円滑化に努める。 ・生徒個々の心身の健康観察を重視し、基本的な生活習慣を確立させる。 ・1つ1つの授業に対して真摯な姿勢で取り組ませる。 ・就職から進学までの広範囲な進路指導に対応するとともに、生徒個々に合う最適な進路実現に努め、その結果の分析をする。	・「時間を守る集団」として、遠足などの学校行事ではより効果的な運営を継続している。 ・日々の食事や睡眠の改善に努め、家庭でのお手伝いも実践する生活に努めている。 ・進路実現に向けて、1つ1つの事象の問題解決に努める真摯な姿勢がある。